

香曾我部義則先生の 今月のカルテ ⑧

慢性痛とペインクリニック

痛みそのものを根本的に治すペインクリニックはこのような治療を行うのか。榎木病院麻酔科・ペインクリニックの香曾我部義則先生が、痛みを伴うあらゆる病気の治療について分かりやすく説明してくれるこのコラム。第18回のカルテは、「頸椎(けいつい)症」についてです。

今回は頸部の痛みの代表選手ともいえる「頸椎症」を中心に説明します。頸(くび)が痛む・肩が凝るといった症状は中高年になるとよく見られる症状です。多くの場合は加齢に伴う退行変性(いわゆる老化)によって起こるものです。

今回の頸部の痛みの代表選手ともいえる「頸椎症」を失うことが原因で、頭をの重みを支えてきたクツを骨棘(こつきよく)と

節(椎間関節)の変形により関節痛が生じます。痛みの刺激が恒常的になると交感神経への刺激が加わり緊張過多となり凝りをもたらします。交感神経の緊張持続によってさらなる痛みの増大を生

ともあります。これが「頸椎症」と呼ばれるもので、頸椎症の症状の多くは、えは急性の椎間関節症によって起こります。

出っ張った椎間板や骨棘で直接神経を刺激する場合は頸だけでなく肩や腕、腕から手、指先に痛みとしびれが生じます。症状が進行すると知覚低下や筋力の低下も起こします。これを「頸椎症性神経根症」といいます。これに対して頸椎症の痛い、凝るといった症状以外に上肢のしびれや筋力低下、反射の異常、さらには下肢のまひといった症状が加わる場合は「頸椎症性頸髄症」の危険があります。頸椎症性頸髄症は、早期の適切な診断が大切。

頸が痛い、肩が凝るーから発症する「頸椎症」

まひを伴う頸椎症性頸髄症は早期の適切な診断を

まひを伴う頸椎症性頸髄症は早期の適切な診断を

まひを伴う頸椎症性頸髄症は早期の適切な診断を

まひを伴う頸椎症性頸髄症は早期の適切な診断を

まひを伴う頸椎症性頸髄症は早期の適切な診断を



香曾我部義則先生

プロフィール こうそがべ・よしのり 昭和54年3月岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長を経て平成16年4月1日から現職、日本麻酔学会専門医、日本ペインクリニック学会認定医、現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

※このコラムは月1回、月末週に掲載しています

又モ 問い合わせ先

榎木病院(西花尻123-1-1)